

「ロケ撮影の環境改善に関する官民連絡会議」 -設置の背景と趣旨-

内閣府 知的財産戦略推進事務局

1. 「連絡会議」設置の背景

- ✓ 昨年度実施した知的財産戦略本部「映画の振興施策に関する検討会議」（次頁参照）では、ロケーション支援に触れ、我が国における国内外の映像コンテンツのロケーション環境の整備を図り、地域でのロケを推進することによって、日本映画の更なる魅力の増進や、映像産業の技術の向上等の他、地域におけるロケによる経済効果等大きな効果が期待できる、と言及。
- ✓ 同検討会議取りまとめを踏まえた形で、「知的財産推進計画2017」では、我が国国内におけるロケ撮影の一層の環境整備を図るため、政府としてロケーション支援の強化を図ることを盛り込んでいる。

【「知的財産推進計画2017」(2017年5月16日、知的財産戦略本部決定)】

第3. 2020年とその先の日本を輝かせるコンテンツ力の強化

2. 映画産業の振興

<<ロケーション支援の強化に向けた取組>>

(撮影環境の改善に向けた取組)

- 我が国における映画のロケ等の環境整備を図ることを目的として、官民及び有識者を集めた連絡会議を設置し、ロケ撮影に関係の深い許認可に係る最新情報の共有、許認可取得にあたっての優良事例の整理とノウハウの共有化等を実施する。また、連絡会議と並行して、具体的に国内外の作品を対象とし、ロケーション支援の実証を行うとともに、これを通じて、支援フローの構築を図る。(短期・中期)(内閣府、関係府省)

(海外作品の誘致の強化)

- 諸外国の海外作品誘致に関する制度・経済波及効果等の調査を実施するとともに、海外製作者に魅力のある都市部における撮影環境の現状及び海外製作者のロケ受け入れに係る諸課題の整理を行う。(短期・中期)(内閣府、関係府省)
- 映画の撮影促進と創造活動の活性化を図るため、我が国各地のロケ地情報を集約し、各地域のフィルムコミッションを紹介するとともに、国内外への発信を更に強化する。(短期・中期)(文部科学省)
- インバウンド観光促進の観点から、地域の観光資源の取材を通じて海外で我が国各地の魅力が発信されるよう、海外メディアの招へいを行う。また、インバウンド促進に資する海外の映像作品の誘致を視野に入れた海外製作者向けロケハン支援の在り方を検討する。(短期・中期)(国土交通省)

(映像コンテンツを活用した地域振興等の促進)

- ロケ受け入れを契機とした観光地域づくりやシティプロモーションを支援するため、ロケツーリズムに取り組む全国各地をネットワーク化し、ロケ誘致から観光客向けの情報発信までのノウハウのマニュアル作成を支援する。(短期・中期)(国土交通省)

(参考) 「映画の振興施策に関する検討会議」 報告書概要

- ✓ 「映画の振興施策に関する検討会議」では、総合芸術として各分野への波及効果が大きく、財・サービスの海外輸出、観光（インバウンド）の先導役としても期待される映画に着目し、改めてその振興策について議論。
- ✓ ①製作支援・資金調達、②海外展開、③ロケーション支援について有識者委員の意見を踏まえ、今後の対応の方向性を取りまとめ。

検討会議での議論のポイント

製作支援・資金調達

- 制作領域への資源配分の必要性。特に、企画開発支援、製作費等中小制作会社や独立系の作り手への創作機会の付与の必要性。
- 既存の支援策の改善への要望。具体的には、単年度主義、事後支払等の改善策の検討の必要性。
- 技能系人材・プロデューサー人材の不足。
- 国内外のビジネス展開における配信プラットフォームの活用。必要に応じた政府からの支援の検討。
- フィルムアーカイブの機能強化の必要性。

海外展開

- 中国を中心としたアジアのマーケットの重要性、アニメーション分野への重点支援。
- 俳優、監督等個人に着目した支援の必要性。
- 助成制度における単年度主義、マッチング支援の在り方等既存施策の見直しの必要性。
- ローカライズ・プロモーション支援の継続・強化。
- 海賊版対策の強化の必要性。

ロケ支援

- 道路使用・消防の観点からの許認可手続等の円滑化、予見可能性の確保の必要性（警察・消防等規制当局を交えたマニュアルの策定）。
- 自国の映画産業の底上げ、産業のグローバル化等を目的とする海外作品誘致強化の必要性。
- ロケ誘致を行うにあたっての、国内の環境整備の必要性（フィルムコミッションの体制強化、人材育成等）

対応の方向性

●制作領域への支援強化・人材育成

「日本映画」の魅力を強化し、その基盤を維持するため、中小を含む制作会社やクリエイターの作品作りへの挑戦を支援。

- **既存の支援策の改善**（年度をまたぐ支援の検討、支援メニューの多様化、申請手続の改善）。
- 官民ファンドの活用などにより、**特に資金需要の強い企画開発や製作段階においてリスクマネーを供給する方策**を検討。
- 内閣府における「**クールジャパン人材育成検討会**」の設置。**【新規】**（→高等教育機関での産業ニーズに即した教育・研究内容検討への活用も視野に議論）

●海外展開支援の強化

産業界の海外市場獲得に向けた取組・挑戦を支援。

- 海外市場における各種規制への対応と、国際共同製作を促すための基盤整備（**国際共同製作協定の交渉、補助金の拡充**）。
- 中小制作会社等の海外展開促進に向け、**最適な資金調達方法の確立を目指し、検証事業を実施。【新規】**
- 海外向けプロモーション支援の拡充・強化。

●ロケーション支援の強化

「日本映画」の魅力の更なる向上、産業のグローバル化を視野に、政府としてロケーションの支援体制を新たに構築。

- 「**ロケ撮影の環境改善に係る官民連絡会議**」の内閣府への設置及び内外の実作品に関するロケーション支援の実施。**【新規】**
- 我が国映画産業のグローバル化・人材育成等に資する**海外作品の誘致制度の具体化の検討**。

(参考) ロケーション環境の整備によって得られる効果

- 国内外の作品のロケーション環境の整備を図ることによって、
 - i) 海外製作者との現場の交流等による**我が国映像産業への裨益**
 - ii) 雇用創出・産業創出、インバウンド・観光誘客といった**地域経済への効果**などを通じ、**我が国経済にも大きな影響**が見込まれる。
- また、我が国は、2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控える。文化の祭典でもある同競技大会に向けて、**日本・東京の持つ魅力を、実写映像を通じて如何に発信していくか**、との視点も加味する必要がある。

ロケーション環境の整備

- 日本映画の更なる魅力の増進
- 日本ロケを含む国際共同製作の推進
- 海外の大型作品の制作現場への参画による映像産業の技術等の底上げ
- ロケによる直接効果（宿泊費・飲食費・雇用等）
- 継続的なロケ誘致による周辺産業の創出・育成効果
- 地域・都市の文化遺産、観光資源等の映り込みによる国内外からの誘客効果

日本の映像産業への裨益

地域経済への効果

GDP 600兆円に向けた効果



2. 「連絡会議」の検討課題

- ✓ 連絡会議では、官民及び有識者が一同に会し、許認可手続に関する情報共有、許認可の取得にあたっての優良事例の整理とノウハウの共有化等を行うことを通じて、我が国におけるロケーション撮影の環境整備を図ることを目的とした議論を実施。
- ✓ 初年度となる今年度の検討では、特に、**許認可手続に関する情報共有及びフィルムコミッションからのヒアリングを通じた優良事例の整理を行い**、次年度以降に、**官民によるロケーション支援のあり方について一定の方向性を出す**こととする。

1. 許認可手続に関する情報共有

- ロケ撮影に関係の深い許認可に係る最新情報(通達、ガイドライン等)の共有。【関係省庁からの情報提供・意見交換】
- 許認可取得にあたっての優良事例の整理と、ノウハウの共有化。【フィルムコミッションからのヒアリング】

2. 官民によるロケーション支援のあり方の検討

- 政府・地方自治体、フィルム・コミッション等関係機関によるロケーション支援のあり方(支援フロー、政府統一窓口の設置要否含む)の検討。
- 具体的作品を対象としたロケーション支援の試験的实施・検証を通じた課題の抽出。

3. 海外作品誘致に関する諸課題の整理

- 海外発信機能の強化、海外事業者の受け入れに係る課題の整理、大型作品誘致強化方策のあり方等に関する課題の整理。【諸外国における海外作品誘致関連制度・経済効果の調査】

今年度の検討

3. 今年度の検討スケジュール（案）

○ 第1回連絡会議（平成29年8月2日）

議題： 許認可手続に関する情報共有

- 1) ロケ撮影に関係の深い許認可に係る最新情報について
- 2) 各地域における取組例について（フィルムコミッションヒアリング：東京、北九州市）

○ 第2回連絡会議（11月中旬）

議題： 許認可手続に関する情報共有、海外作品に係る諸課題

- 1) ロケ撮影に関係の深い許認可に係る最新情報について
- 2) 各地域における取組例について（調整中）
- 3) 海外作品誘致に係る諸課題について

○ 第3回連絡会議（2月中旬）

議題： 連絡会議中間取りまとめ（案）について

- 1) 連絡会議中間取りまとめ（案）について
（※3月頃に開催される知的財産戦略本部検証・評価・企画委員会（コンテンツ分野会合）に検討状況を報告）



「知的財産推進計画2018」への反映